

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう」 教材名「風船でうちゅうへ」

2 単元の目標

紹介の中心とそれの根拠となる出来事を区別し、全体と中心との関係を理解できる。文章を読んで捉えた出来事を基に感想や考えをもち、友達との交流で興味をもつところの違いに気付ける。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①紹介の中心とそれの根拠となる出来事を区別し、全体と中心との関係を理解している。〔知識及び技能〕(2)ア)	①「読むこと」において、文章を読んで捉えた出来事を基に感想や考えをもち、友達との交流で興味をもつところの違いに気付いている。〔C(1)オ・C(1)カ〕	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

風船による挑戦の経過から、自分が紹介したい出来事を選び、なぜそこに興味をもったかを叙述を基に説明する。全ての出来事を同じ重さで紹介せず、紹介の中心と、その根拠となる経過を分ける。学習指導要領のC(1)オ・C(1)カを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

出来事のメモを並べ、紹介の中心を囲む。中心を理解するのに必要な前後のメモだけを残す。語句が難しいときは図示して本文の説明に戻り、本文にない装置の仕組みを付け足さない。おおむね満足できる状況は、文章を読んで捉えた出来事を基に感想や考えをもち、友達との交流で興味をもつところの違いに気付いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、興味をもった出来事と知りたいことをメモする。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3	○挑戦の経過を、出来事・結果・その後の取組に分けて整理する。	知①（語句や内容の整理）
	4	○紹介の中心を選び、中心を説明するために必要な前後の出来事を残す。	学習状況を見て支援する。
	5 （本時）	○興味をもった理由が伝わる紹介の組み立てを、出来事のメモを使って説明する。	思①（発言・学習記録）
	6	○紹介文を書き、本文から確かめたことと自分の感想を読み分けられるようにする。	学習状況を見て支援する。
	7	○紹介文を読み合い、注目した出来事や理由の違いを話し合う。	学習状況を見て支援する。
第3次	8	○質問を受けて紹介文を直し、中心を決めて読むことのよさを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導 (5/8)

(1) 本時の目標

文章を読んで捉えた出来事を基に感想や考えをもち、友達との交流で興味をもつところの違いに気付く。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「いちばん紹介したい出来事はどれですか。そのよさを伝えるために、前後のどんな出来事も説明する必要がありますか」 【めあて】風船による挑戦の経過から、自分が紹介したい出来事を選び、なぜそこに興味をもったかを叙述を基に説明する。 〈予想される児童の反応〉 ・成功した結果だけでは、工夫のおもしろさが伝わらない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「いちばん紹介したい出来事はどれですか。そのよさを伝えるために、前後のどんな出来事も説明する必要がありますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・成功した結果だけでは、工夫のおもしろさが伝わらない。 ・前の試みを読むと、この出来事に興味をもった理由を説明できる。 ・友達は自分とは違うところに注目していた。	出来事のメモを並べ、紹介の中心を囲む。中心を理解するのに必要な前後のメモだけを残す。語句が難しいときは図示して本文の説明に戻り、本文にない装置の仕組みを付け足さない。 想定する難しさ：科学的な成功だけを紹介し、なぜ興味をもったかを述べない。経過を長く並べて中心が見えなくなる。児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文章を読んで捉えた出来事を基に感想や考えをもち、友達との交流で興味をもつところの違いに気付いている。 (発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・友達は自分とは違うところに注目していた。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「いちばん紹介したい出来事はどれですか。そのよさを伝えるために、前後のどんな出来事も説明する必要がありますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

